

平成21年度 京都市立西総合支援学校 学校評価表 (年間評価)

	分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1	確かな学力	① 学校教育目標達成のための基本方針に沿った教育活動	教職員・保護者・アンケートによる分析	①については、保護者、教職員とも、できているとする評価(5, 4の評価)がほぼ8割であり、教育活動全体としてはできていると評価できる。	学校の研究テーマ(本校にとってのキャリア教育の推進)の、学校教育目標・方針等への位置づけをより明確にしてい。また、研究テーマへの意識や理解を、年度当初の教職員研修等で深める。そして、学校全体の研究テーマを各学部でさらに具体化していき、その取組実践の検証を3ヶ月単位の授業の見直し時に行う。
		② 学校の研究テーマに基づいた組織的な研究活動・実践	教職員・保護者・アンケートによる分析	②については、教職員の5, 4の評価は約4割にとどまっており、学校の研究テーマと各学部の取組が連動していけるような改善が必要である。	
		③ 個別の包括支援プランに基づいた教育実践	教職員・保護者・アンケートによる分析	③については、5, 4の評価は、保護者がほぼ8割、教職員がほぼ6割であるが、個別の包括支援プランの効率的な修正・更新については、できていないとする評価(2, 1の評価)が教職員に約1割見られた。	
		④ 目標の具体化、できる状況作り等による、わかる授業の創造	教職員・保護者・児童生徒アンケートによる分析	④については、5, 4の評価は保護者が7割～8割、教職員がほぼ6割である。「わかる授業の創造」への取組を引き続き推進していく必要がある。	
		⑤ キャリア教育の推進	本年度の研究テーマに位置づけ実践	⑤については、まだ、全教職員が十分に意識を持っているとはいえない状況であり、次年度の取組をさらに充実させる必要がある。	
2	豊かな心	① 望ましい言葉づかいの徹底	あいさつの奨励	①については、年度当初から児童生徒に「あいさつ」の指導をしてきた。年度当初に比べて、あいさつがよりよくできる生徒が増えてきているという教職員の感想がある。一方で教職員のあいさつがなかったとする保護者の声も届いている。	教職員がよいモデルとなり、更に適切な「あいさつ」ができるよう、指導を継続していく。
		② 豊かな心の育成	相手を思いやる内容のユニット設定 人権教育年間計画の見直し	②については、相手を思いやる内容のユニット設定は、随所に見られ、日ごろから、児童生徒の人権意識の醸成を意識した取組が進められている。	
3	健やかな体	① 健康管理の徹底	日常の健康観察	①については、新型インフルエンザの流行に関わらず、全教職員が従来から実施している。また、保護者とも電話や連絡ノートを通して情報の共有を図っている。しかし、てんかん発作時の記録の方法について十分徹底されていなかった面もある。	健康状態についての保護者・関係機関との連携は不可欠。てんかん発作の記録表について、再度、全教職員で確認し、正確に記録することが必要。
		② 体力の向上	部活動の充実、各種スポーツ大会への参加、日々の運等関連ユニット	②卓球バレー、卓球、水泳、陸上、マラソン等の各種大会に積極的に参加。全国大会で入賞する生徒もいた。	
		③ 障害特性に応じた対応	医療的ケア、自立活動	③障害特性に応じた医療的ケアや自立活動は、関係機関や外部専門家と連携して実施し、成果をあげている。	
4	学校独自の取組	① 総合育成支援教育におけるセンター機能の充実	育支援センター業務、学校サポートチーム、モデル事業	①については、地域小中学校等のニーズに応える形で実施している。高等学校からの相談や、小学校・中学校・育支援センター・関係機関との合同のケース会実施等、その内容は、充実してきている。また、モデル事業(小学校2校対象)においても、小学校の取組が進展する等、成果をあげた。	育支援センター業務に従事する支援部教員(地域支援コーディネーター)の専門性の向上は、今年度に引き続き、推進していく。
		② 学校と地域の双方向の援助による教育の推進	中学部「地域の日」の授業展開 福祉施設との交流の実施	②については、中学部の「地域の日」(毎週水曜日に設定)や、中学部段階からの体験学習の実施等、地域での学習が昨年度より拡充してきている。また、放課後活動の一環として、福祉施設との交流会が実施でき、双方向の援助の関係が進められてきている。	
		③ 地域活動への参画	地域行事への参画	③については、地域行事(ふれあいの里秋祭り、西京福祉フォーラム、福西まつり 他)に生徒もワーク製品販売や楽器演奏等で参加し、地域住民との交流を深めた。また、本校では、学校運営協議会と学校の共催として芝生まつり・もちつき大会を開催し、地域住民(子どもたちを含めて)交流を深めた。また、地域の「統一クリーンデー」には、児童生徒・PTAも参加し、地域の一員として活動した。	
		④ 児童生徒の安全	緊急時対応訓練	④については、今年度は、今までの避難訓練・防犯訓練に加えて、医ケアの必要な児童生徒等の医療面での緊急時対応訓練を3回実施し、教職員の意識、スキルが高まった。	
		⑤ 環境教育の推進	私たちの環境宣言、緑のカーテンの取組	⑤については、児童生徒、保護者、教職員が「私たちの環境宣言」の目標を各自で設定し、実践した。	
		⑥ 情報発信の充実	PTAホームページのメール配信	⑥については、今年度から、PTAホームページのメール配信を開始することができた。配信内容・回数等については、次年度に、さらに充実していく必要がある。	
		⑦ 芝生グラウンドの活用	NPO法人京都芝生スクールによる視察・評価(年4回程度)	⑦芝生グラウンドの活用については、今年度は、休日にオーバーシードをすることができ、芝生使用禁止の期間を設けずに、フル活用することができた。	
5	学校経営	① 総務部・指導部・支援部の連携	教職員・保護者・児童アンケートによる分析	①については、教職員の5, 4の評価は約25%にとどまり、2, 1の評価は、約2割あった。連携が不十分である、とするアンケートの記述も複数見られた。	各部の連携については、管理職を含め、各部の業務が効率よく推進できるよう、互いの立場を認め合い、協働していこうとする職場作り推進の必要がある。打合せや相談をより適時にすること等コミュニケーションをスムーズにし、風通しを良くしていくことが必要。
		② 学校予算、学校預かり金の適正な執行	教職員・保護者・児童アンケートによる分析	②については、約6割の教職員が5, 4の評価をしている。消耗品等、必要な予算を上げられていなかった面もある。	
		③ エコオフィスの推進	省エネルギーの実践	③については、教職員の意識も高まり、水道・電気・ガスの使用料金は、前年度比で約97.8万円削減でき、教材、教具の充実につながられた。	
		④ 学校運営協議会の充実		④については、地域との連携をはじめ、学校の取組について、助言をいただいた。(年4回実施)	

学校関係者評価	
評価結果	改善に向けた支援策
・学校評価については、保護者の回収率は68%で、教職員(管理職を除く)の回収率は98%で教職員の意識が高い。 ・児童生徒へのアンケートを、わかりやすく行ったのは評価できる。生徒には新たな発見になってとてもよい。 ・あいさつができる児童生徒が増えているのは、社会に生きる人として大切なことである。 ・アンケート項目の文言に、2つの内容が入っているものがあり、評価しにくい項目がある。 ・キャリア教育については、地域にも発信された。キャリア教育の充実は大切なことであり、研究テーマへの評価にもなる。 ・育支援センターの地域支援の取組は、地域に貢献している。さらなる充実が望まれる。 ・中学部の「地域の日」の取組等、地域と連携した取組を進めている。「わくわくクラブ」・PTAも頑張っている。今後も地域と連携した取組を発展させることが望まれる。 ・省エネルギーの取組が浸透してきていて、成果を上げ、教材費等の充実につながっている。 ・学校の組織内の連携をよりスムーズにしていくことは、子どもたちの教育を進めていく上で大切なことである。	・学校評価については、客観性が問題になる。客観性を保つために第三者的な評価を入れていくことも今後検討していく必要がある。アンケート項目は、1項目に2つ以上の内容が入らないよう整理していく。また、アンケート結果等、課題になるところがどこであるか目立つように標記する等、見やすくする工夫も大切である。年齢、経験年数別に分析すると、問題が絞られ、どんなサポートが必要かが見えてくるのではないかな。 ・キャリア教育については、教職員に明確に目標がもてるようにし、取組を進めていくことが大切である。 ・地域と連携した取組は、継続、発展させていく。(特に居住地域との連携) ・地域支援コーディネーターの専門性の育成は引き続き必要である。 ・学校運営協議会の場に、各学部の若手のリーダーが出席して、取組を紹介することで、教職員への理解が深まる部分があるのではないかな。